

まんまで えーやん ①

定時制・湊川高校の春

制服はない。ピアスもネイルもオツケー。携帯電話だって教室に持ち込み可能だ。校舎に最初のチャイムが鳴るのは午後4時10分。空の青みが薄まる頃、生徒たちがぼつりぼつりと姿を現す。

神戸市営地下鉄の上沢駅から北へ歩いて10分。1月下旬、神戸市長田区にある夜間定時制の兵庫県立湊川高校。水畑哲也校長(60)は3月末に退職し、廊下を歩いていると、茶髪の生徒が2、3人駆け寄ってきた。

「よっ!校長」「ネクタイ曲がってるで」

休憩時間に教室をのぞく。端っこで熱心に本を読む子、机に座って大声で笑う子、パーカーのフードをかぶってゲームに熱中する子…。それぞれの時間が流れていた。

「いろんな子がいるでしょう」。困ったように、うれしそうに、水畑校長が目をつめた。働きながら学ぶ若者にとつて、大切な教育の場だった夜間高校。時代は移ろい、不登校の経験者や発達障害の子、養護施設から通う子、仕事を求めて来日した外国人の子弟…。と、集う

夜の学舎 つながり求め

よっ!校長

面々は多様化している。

「ここは気楽一と、2年のアヤさん(17)は仮名。」「いろいろな人がいて、休んでもいいっていう安心感がある。だから続いている」。隣で親友のレナさん(17)も同じもうなづいた。

休日是一緒にアニメや登山を楽しむ2人。「同じにおいがする」と、入学後すぐ意気投合した。

「人間関係に疲れて」「中学時代はいろいろなうまくいかなかった」。湊川に入学した理由も、どこことなく似ていた。

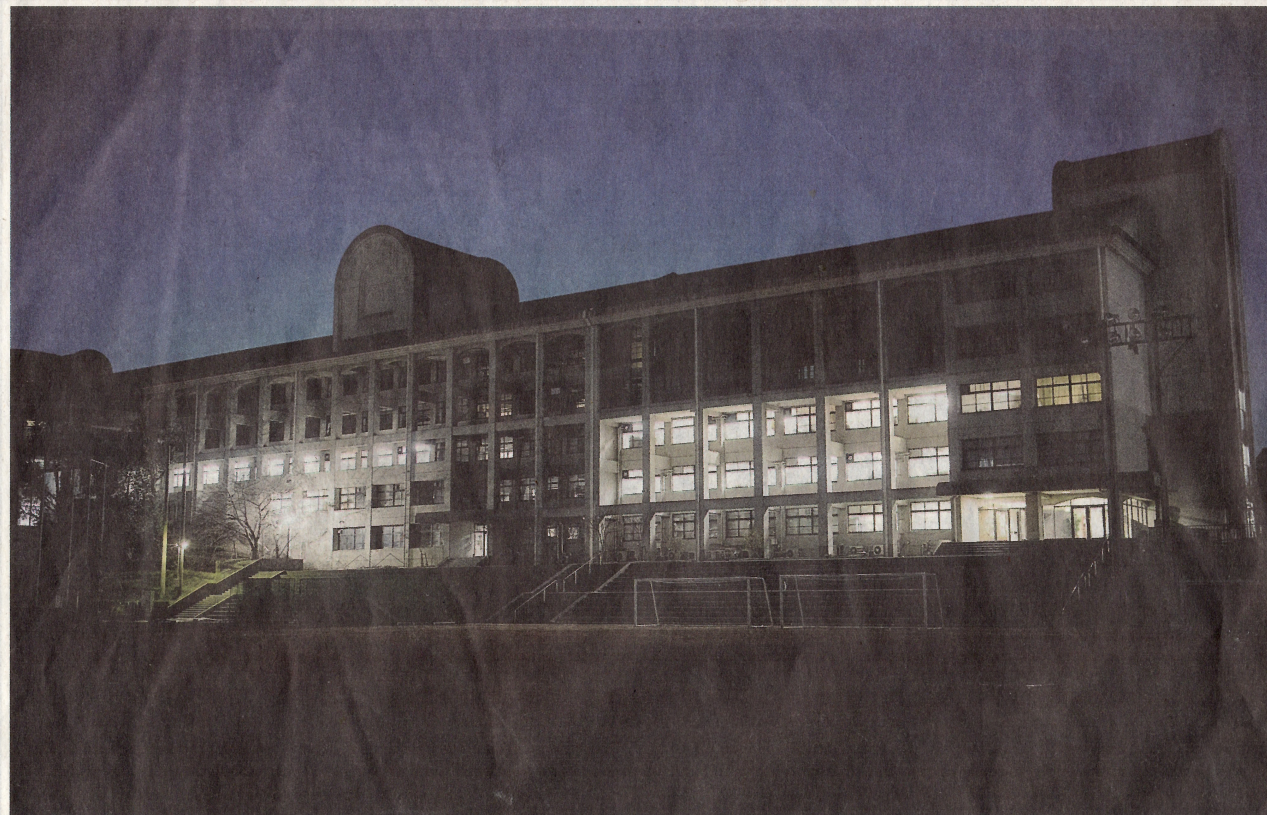
ただ、全国的には定時制高校に通う生徒は減少傾向にある。文部科学省によると、1980年度の約15万人から2019年度は約8万2千人に。一方で、自宅学習が中心の通信制高校は約13万人から約19万人になり右肩上がりが続く。

そんな中、2人が定時制を選んだ理由は？

「やっぱり、人とのつながりはほしいから、かな」

2人に3年目の春が訪れた。(末永陽子)

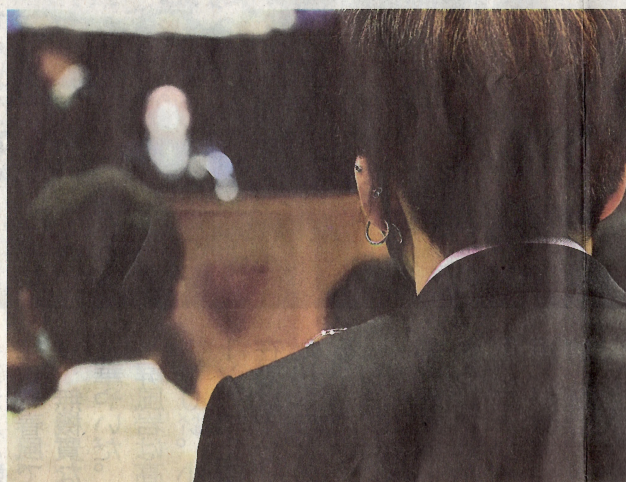
◆ 1929(昭和4)年創立の湊川高校は、全日制の兵庫高校と校舎を共用している。長年、差別や人権問題と真正面から向き合い、これまで約52000人の卒業生を送り出してきた。記者2人が夜の学校を訪ねた。(計8回です)



午後7時。湊川高校の教室の明かりが闇に浮かんだ
=神戸市長田区寺池町1(撮影・秋山亮太)



集合写真を撮影する生徒ら(撮影・中西幸大)



卒業式に臨む生徒
(撮影・中西幸大)

兵庫高校と校舎を共有する湊川高校。教室には2校のクラス表示が並ぶ(撮影・秋山亮太)



教室で過ごす生徒たち(撮影・秋山亮太)